

→ 株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日
定時株主総会	毎年5月
単元株式数	1,000株
基準日	定時株主総会の議決権 2月末日 期末配当金 2月末日 中間配当金 8月末日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。 広告掲載URL/ http://www.takihyo.co.jp ※決算公告に代えて、貸借対照表、損益計算書はEDINET（金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム）にて開示しております。
証券コード	9982
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部
株主優待制度	2月末と8月末に1,000株以上保有の株主様に対して、自社のオリジナル製品を贈呈させていただいております。 今回2月末の商品はキーケースです。 また、2月末日現在で1,000株以上保有の株主様の中から抽選で10名様に、50万円の旅行券を贈呈させていただきます。

株式の諸手続についてのお問い合わせ先

 **0120-78-2031**

最新のIR情報はHPにてご覧いただけます。
<http://www.takihyo.co.jp/jp/ir/index.html>

携帯はこちら ▶



Business Review 99

For the year ended February 28, 2010 **Takihyo**

変化を恐れず
つねに挑戦する姿勢を
これからも



宝暦元年(1751)に創業したタキヒヨーは、大正元年(1912)に会社組織となり、再来年11月15日に会社設立100周年を迎えます。長きにわたり事業を続けてこられましたことは、ひとえに株主様をはじめ、当社を支えていただいている皆様のお陰と深く感謝しております。

この一世紀の間、当社は繊維製品を一貫して取り扱っておりますが、事業の内容は大きな変遷を辿ってきました。

まず、市場ニーズに合わせ、和装から洋装への事業転換を図り、扱う品も手作りの着物から縫製工場で大量に製造する工業製品へと様変わりいたしました。さらに生産の多くを海外に移転しつつ、安価で良質な製品を流行に遅れることなく消費者の元へお届けしてきました。

また、長年の課題でもありました、製

品の海外輸出を本格化する環境も整えてまいりました。

一方、平成6年の上場を機に、お取引先や金融機関、そして社員等に限られていた株主は飛躍的に増加し、変化の激しい経営環境の中において多くの貴重なご意見を頂戴いたしております。

タキヒヨーはこれからも、時代のニーズに応えながら変化することを恐れず、さまざまな事業に挑戦していく考えです。毎年継続的に売れる商品の比率が低下するなか、マーケットで受け入れられる商品をいち早く察知し商品化するためにも、消費者でもあります株主の皆様からの変わらぬご支援を願ってやみません。

代表取締役社長 滝 茂夫

A handwritten signature in black ink, likely of Shigeo Takagi, the Chairman and CEO.

変化 伝承



出会い



古くから続く町家や商家が点在し、昔ながらの面影が残る京都・室町三条。その一角に、タキヒヨーが手がける高級雑貨のセレクトショップ「品—SHINA—」があります。

同店がオープンしたのは2007年5月。新規事業として2年の歳月をかけて構想を練り、室町通沿いにある老舗帯問屋の「蔵」を改装。ギャラリーを併設した店舗の開店に至りました。

繊維商社であるタキヒヨーが、服飾ではなく、なぜ高級雑貨のセレクトショップを手がけるのか。新規事業開発を担当する取締役・滝祥夫は話します。

「私たちが目指すのは、繊維分野に留まらない、“ライフクリエータ”としての事業活動です。消費者の心に響く、選び抜かれた本物の商品を提供したい。その思いが、『品—SHINA—』運営の根底にはあります。」

また、日本の伝統文化や現代アートを支える情報拠点としての使命も担う「品—SHINA—」。滝は、名工が手づくりした逸品をお客様に提供することで、伝統の技やアート作品を次世代に継承していく助けになればと強調します。

創業から約260年にわたる歴史のなかで、変化とともに常に「暮らし」に関わる事業を提案し続けてきたタキヒヨー。「品—SHINA—」には、その企業文化が息づいています。

先進アーティストによる 器と花の競演



華・SAKU・器 (SAKU / 作・咲くの意味)

期間：2010年4月6日(火)～5月9日(日)
場所：京都市中京区室町通三条下ル 誉田屋奥「品—SHINA—」
TEL：075-257-5567

作家：■華道池坊本部研究員／島津範好氏
■陶芸家／森野彰人氏・山田晶氏 ■彫刻家／宮永甲太郎氏

華道池坊本部研究員・島津範好氏と次代を担う彫刻家・宮永甲太郎氏、陶芸家・森野彰人氏、山田晶氏との華麗な「花いくさ」「蒼」「白」「緋」のテーマで制作された器に、大胆かつ繊細に花々がいけられました。展示期間は一週間～10日間。時とともに変化する、華やいだ空間が誕生しました。

島津範好 (しまづのりよし)

1972年生まれ。京都在住。1981年、池坊入門。1994年、学校法人池坊学園 池坊文化学院 いけばなコース卒業。学校法人池坊学園、池坊文化学院講師および池坊短期大学講師。財団法人池坊華道会中央委員。華道家元池坊総務所研究員。財団法人日本いけばな芸術協会正会員。

今年4月から5月にかけて、ギャラリーで開催された、「花・SAKU・器」展。京都在住の陶芸家、彫刻家の3氏が器の制作を担当し、その器を花器に見立て、若手華道家の池坊・島津範好氏が花をいけるというコラボレーション企画。この企画展は、「品—SHINA—」が始まって以来の試みでした。

「プロ作家の方々が作られる器は、単体ですでに完結したアート作品。器の持ち味を損なうことなく、花を加えることで、その空間に新たな命と魅力を生み出すことが私のテーマです」

そう話す池坊・島津氏。器づくりの前には、作家たちと意見交換の場を設け、互いの考えをぶつけ合ったと言います。

時代の移り変わりとともに、芸術による表現方法やテーマも多様に変化していきます。華道にも造形アートにも共通するのは、昔から変わらぬ技を生かし、ものづくりに携わる者としての思いを、現代人の感性に響く手法で表現すること。

「陶芸・彫刻と華道は分野こそ違い、伝統の技を現代風に解釈し、見る人に伝えていく精神は同じだと感じています。華道家としても学ぶ点が多く、やりがいのある企画でした」

伝統の心を伝承する姿勢は、タキヒヨーの企業活動にも相通じるものがあります。長い社歴をもつ企業だからこそ、時代の変化に対応しながら、新しい価値を



自由花の大作のほか、一輪挿しまでさまざまな花がいけられた。〈「猩々緋」花器：山田晶作〉

次の世代に伝えていきたい。タキヒヨーはそう考えます。

最後に島津氏は、「花は、見る人によっていかようにも姿を変えます。華道とは、華道家とお客様とのキャッチボールなんです。この展示会では、作家同士のキャッチボール、出会いが実現しました。こうした機会を通して、文化を広く伝えていけたら」と、意欲的に語りました。

「品—SHINA—」のギャラリー空間で、現代アーティストたちが奏でる美の競演。新しいアートの風が、この場所から生まれていきます。



感性と直感で大胆に花をカットし、いけていく島津氏。それぞれの生花がひとつの作品へと姿を変える。



丸若屋-印伝「i-Phone カバー」
丸若裕俊氏のグループと東京・浅草の前川印伝とのコラボ作品。印伝の技法を携帯電話用カバーに応用。鹿革に漆で描いた模様は4種類。左から麻の葉・宝づくし・青海波・紗綾型。黒×黒11,550円、黄×青13,125円。



本保「砂張おりん」
デザイン性に優れた球体の丸おりん。軸柱に支えられた球体をりん棒で叩くと、通常の半球形おりんよりもさらに澄んだ品の良い音色が響き渡る。丸型21,000円、碗型角台22,050円。



鳥毛清喜「バリガラス」
バリ島在住のガラス作家、鳥毛清喜氏の作品。リサイクルガラスが使用されており、ガラスとは思えない温かみの特徴。完全オリジナル、ハンドメイド製品。花器12,600円、蓮オブジェ10,500円、ティーポット8,400円



オイルランプ「TOHKA」
ガラス造形作家・狩野智宏作のオイルランプ。吹きガラスの技法で手づくりされ、それぞれ色や大きさが異なる。ランプは「和」の7色を含む穏やかな26色。芯はステンレス製で、半永久的に使える。各10,500円



はなもっこ「携帯時計」
和の個性が光る女性用携帯時計。組紐細工の布製ベルト、岩絵具・蒔絵・漆塗で装飾された文字盤など各シリーズがある。左から、裏箔ネコ+梅苔染め24,465円、緑青+白組紐22,575円、七宝紋 珊瑚末+山桜染め24,465円。



稲嶺盛吉「琉球嶺額ガラス」
再生硝子を使い、天然の素材ならではの色彩を表現している。「泡ガラス」「土紋」の技法による、陶器のような風合いが特徴。うす泡中切玉皿36,750円、土紋酒器21,000円、土紋中切玉水玉グラス4,725円、土紋中切玉巻ロックグラス4,725円。

高
感
度
空
間
で
新
し
い
暮
ら
し
を
再
発
見
す
る

「品一SHINA」が店を構える「蔵」は、京都・室町三条で270年余り続く老舗の帯問屋・菅田屋内にあります。菅田屋さんの暖簾をくぐると、そこは玄関庭。かつて使われていた人力車や防火桶が並び、歴史の重みを感じさせます。座敷のある広い店内を通り抜けて、商家のプライベート空間である走り庭（台所）へ。その先に歩を進めて、ようやく「蔵」にたどり着きます。

店舗がある建物は明治期に建てられた

日本建築の「蔵」と、昭和初期に増築された洋風建築で円筒形の「塔」が融合したユニークな造り。表の通りからは想像できないほど落ち着いた場所に、隠れ家的な空間が広がり、建物の造形美が店内の品々を一層引き立たせます。

「品一SHINA」では、工芸品・雑貨の良さを熟知した大人のための逸品を取り揃えています。商品は仕入れ担当者が国内外の工房や作家を訪ね、あるいは直接交渉して品を見定め、素材・技・品質

を選び抜いたものばかり。たとえば、金沢の職人の手による携帯時計細工。漆塗や蒔絵で彩られた文字盤、組紐の技法で細工した布製ベルトなど、伝統の技が細部に生かされています。また、鹿革などに柄を描く印伝の技法を用いたi-Phone用カバーも秀逸。鹿革に漆で麻の葉、青海波などの細かな模様が浮き彫りになった小粋な品です。

伝統と現代の技がうまく溶け込んだ品々からは、新しい力が感じられます。



選りすぐりの商品がセンスよく陳列されている。定番のほか季節商品もあり、いつ来店しても楽しめる。



白を基調とする広々とした店内は、まさに外界から隔離された異空間の佇まい。「蔵」の趣きが感じられる。

〒604-8165
京都市中京区室町三条下ル西側菅田屋奥
営業時間／11:00～19:00 定休日／水曜日
Tel / 075-257-5567
URL / <http://www.shinanet.jp/>
京都市営地下鉄烏丸御池駅から徒歩5分
阪急京都線烏丸駅から徒歩7分



二重ガーゼのパジャマは、通気性・吸水・速乾性に優れているため、夏は涼しく着心地がいい。

素材開発 和のデザイン そして企画力で市場に対応

低成長時代のなかで、好調を維持しているのがホームウェア部門です。近年、いわゆる“巣ごもり消費”が増加する傾向にあり、市場ではデリーユースの日常衣料が堅調。同部門が扱うパジャマ商品の売れ行きも順調に推移しています。本来はナイトウェアの印象が強いパジャマですが、タキヒヨーではルームウェア感覚で着られるよう、デザイン性や機能性を重視して商品提案を続けています。

2009年夏は、「柔らかく、肌にやさしい素材」が人気。なかでも、ソフトな着心地と優れた吸湿性の特長をもつ、二重ガーゼ素材のパジャマが大好評でした。

また、カジュアルブランドの「NICE CLAUP」とライセンス契約し、量販店ルートでヤング層への販路拡大を加速させています。

Tシャツタイプのパジャマでは、「和のデザイン」(鯉の絵、和風の模様など)をワンポイントで施した商品が売れ筋に。10年春夏は、この「和風」路線を強化して、最近の戦国時代ブームに応えるブランド「戦国街道」を企画。武将にまつわる柄をプリントや刺繍で表現し、襟や袖口を「和柄」で縁取る個性的なデザインが特徴です。展示会や商談での引き合いが多く、贈答用としての需要も高まっています。



鯉のイラストが大胆にプリントされたTシャツタイプのパジャマ。襟の裏側に和柄を入れるこだわりも。



ホームウェア部
小島克仁

コーディネート力を武器に 玩具店・量販店への販路を拡大

ベビー・キッズ部門では今、レインウェア商品が話題を集めています。

2009年夏、タキヒヨーは玩具販売で全国展開する「日本トイザらス」と提携。当社が企画した雨具・雑貨を、同店の雨具用品コーナーに提供しています。これまでキッズ向けの雨具や雑貨を単品ごとに扱い、企画・提案のノウハウを培ってきた同部門。そのコーディネート力が評価され、販路拡大につながりました。

現在扱っているのはポンチョ、レインコート、雨傘、長靴などのアイテム。特長は色・柄をコーディネートできる点で、お気に入りの組合せでセット買いする消費者が多く好評です。このスタイルを全店(167店)で展開中です。各アイテムは3色(赤・青・黄)を基本に取り揃え、同柄や同色でのセット購入を後押し。「くまのプーさん」などキャラクター商品のシリーズも人気を得ています。

ベビーキッズ1部
倉橋千尋



©Disney Based on the "Winnie the Pooh" works by A.A. Milne and E.H. Shephard.
立体的にデザインされた耳の部分が可愛い「くまのプーさん」シリーズ。ポンチョもある。

これを機に自社商品の「Mariarjue」(女児向け)、「Play Rock」(男児向け)のブランド戦略も進めています。10年春夏物からは、ミニリュックなどの関連雑貨を追加。提案力を高め、玩具店ルートのほか、GMSなど大型量販店への展開でも成果を上げつつあります。



ドット柄と、鮮やかなパステルカラーが印象的なオリジナルブランド、「Mariarjue」シリーズ。キッズのレイングッズでは一番人気。



トレンドのポケットチーフやピンバッチ、ハート型のボタンやステッチ使いなど、子どもらしさとともに、大人の佇まいと質の良さを重視。

フォーマルの子ども服。 インターネットでの販売がスタート

七五三や卒園、卒業、入学シーズンには必須アイテムとなる子どもの正装服。ベビーキッズⅡ部では、昨年12月から開始したインターネットでの販売が好評でした。ネクタイに色違いでドットの刺繍を施したり、袖口や襟に繊細なレースをあしらうなど、大人用にも劣らない品質とデザイン性を重視した仕上がり。

今シーズンの販売はほぼ終了しましたが、来年度に向けすでに新作の製作を開始しています。ご期待ください。



フィレンツェで開催された、世界最大級のメンズファッション展示会「ビッティ・イマジネ・ウオモ」。

個性豊かな新ブランド「レクール」。 欧州で好評、商品化へ

テキスタイル部門では、数年前から新事業として独自の糸づくりに取り組んできました。約100年前に作られた英国

式紡績機を使い、製糸から生地、デザイン、縫製、衣料品までを総合プロデュース。そうして生まれたのが、自社ブランド「レクール」(Lecur)です。

中高年向けのエレガンス&カジュアルに絞ったカテゴリーで、2009年夏に欧州で試作品を発表。春夏物を出品したパリの国際見本市では大きな反響を呼びました。さらに、今年1月にはイタリアで開催された展示会「ビッティ・イマジネ・ウオモ」に秋冬物を出品。すでに欧州市場では商品化を進めており、今後は米国市場にも展開していく計画です。

デザインと機能に優れた特製キーケース

今回の株主優待商品は、上質なデザインと機能面に優れたオリジナルの革製キーケースです。

鞆づくりの専門店で依頼し、牛革の素材に型押しを施し、縁はシングルステッチ。シンプルながら、飽きのこない上品なデザインに仕上げました。

機能面では使い勝手を重視。キー用の5連ホルダーのほか、取り外し可能なリング付きホルダーを設けました。

さらに、LED製ペンライト(ケース

折り返しのマチ部分)、ICカード型乗車券などのカード入れ(ケース裏側)を備えています。

革製品は使い込むほどに革のつやが出て、風合いが変化していくのも魅力。ビジネスに、プライベートに末永くご愛用いただければ幸いです。

ケース裏側のカード入れ。このため、通常のキーケースよりサイズが大きめ。



※写真はイメージです。実際の商品とは異なります。

第99期決算のご報告

当社を取り巻く環境につきましては、デフレ状態にある中、消費者の生活防衛意識や節約志向による衣料品の買い控え傾向には改善が見られず、衣料消費は低迷いたしました。衣料品小売業界では、店舗閉鎖や出店抑制、低価格化への対応や自主企画商品の開発強化など、企業間の販売競争は一層厳しさを増しました。

このような状況のもと、当社グループといたしましては、的確なマーケット情報の収集と消費

者ニーズの分析により、トレンドに対応した企画提案、販売先各社のニーズを先取りした企画提案、独自性や付加価値性を重視した「提案型」の商品企画により、マーケットシェアの拡大に努めてまいりました。

また、中国の協力工場の閑散期を利用して早期発注、早期生産を実施するなど、協力工場との取り組みを一段と強化することにより生産基盤を充実させ、生産の効率化、高品質の維持、低

コスト化を図ってまいりました。加えて、的確な品番数・数量設計の見極めによる販売口スの排除、適正在庫管理の徹底による在庫回転率の向上に取り組んでまいりました。

物流業務につきましては、平成22年1月より愛知県犬山市に当社グループで最大規模となる新物流センター（(株)タキヒヨー・オペレーション・プラザ 犬山センター）の操業を開始し、他の物流拠点の集約や、作業基準の明確化、作

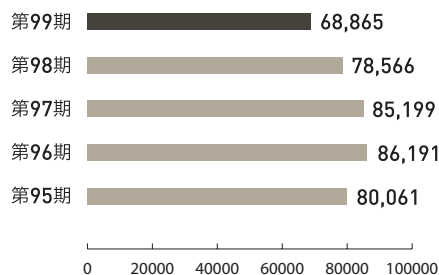
業効率向上に向けた取り組みなどにより、物流全体の生産性向上に取り組んでまいりました。この結果、当連結会計年度の連結売上高は68,865百万円（前連結会計年度比12.3%減）、連結営業利益は699百万円（前連結会計年度比45.0%減）、連結経常利益は1,196百万円（前連結会計年度比32.8%減）、連結当期純利益は573百万円（前連結会計年度比42.4%減）となりました。

業績の推移

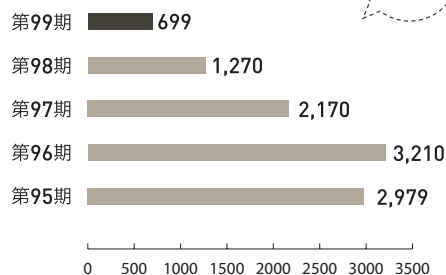
2009年3月1日～2010年2月28日

単位：百万円、単位未満切捨て

→ 売上高

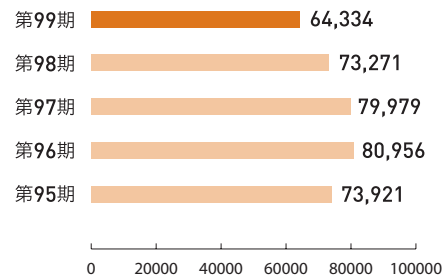


→ 営業利益

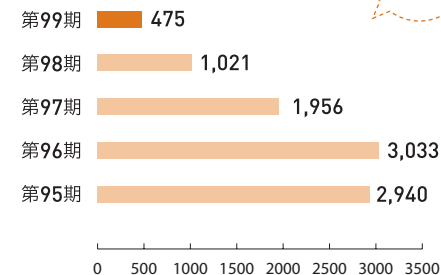


連結

→ 売上高

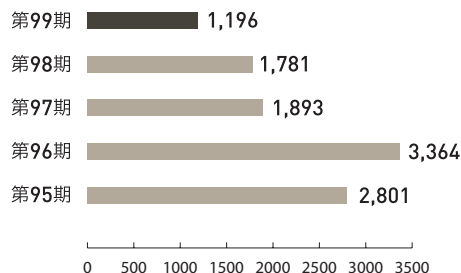


→ 営業利益

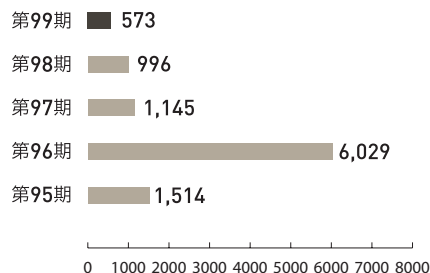


単体

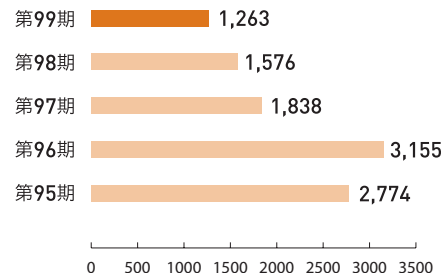
→ 経常利益



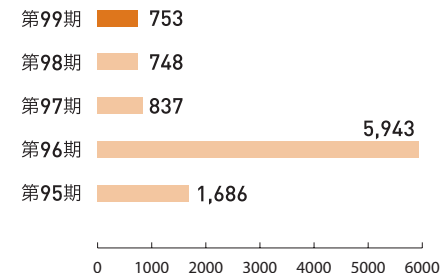
→ 当期純利益



→ 経常利益



→ 当期純利益



→ 連結貸借対照表

単位：百万円、単位未満切捨て

科目	2010年2月期	2009年2月期	増減
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	3,006	3,736	△730
受取手形及び売掛金	16,534	19,328	△2,794
たな卸資産	—	3,429	△3,429
商品及び製品	3,119	—	3,119
仕掛品	30	—	30
原材料及び貯蔵品	15	—	15
繰延税金資産	143	132	11
その他	414	372	42
貸倒引当金	△23	△25	2
流動資産合計	23,239	26,975	△3,736
固定資産			
有形固定資産			
建物及び構築物	1,964	1,714	250
機械装置及び運搬具	53	33	20
器具備品	1,061	933	128
土地	12,105	8,428	3,677
リース資産	2	—	2
有形固定資産合計	15,186	11,110	4,076
無形固定資産	89	107	△18
投資その他の資産			
投資有価証券	4,858	5,648	△790
出資金	24	26	△2
長期貸付金	70	43	27
長期差入保証金	700	867	△167
繰延税金資産	167	555	△388
保険積立金	112	123	△11
その他	532	585	△53
貸倒引当金	△339	△380	41
投資その他の資産合計	6,126	7,470	△1,344
固定資産合計	21,402	18,688	2,714
資産合計	44,642	45,663	△1,021
流動資産は受取手形及び売掛金を中心に37億円減少し、3月に取得した東京支店を中心に有形固定資産が40億円増加する一方で、主に投資有価証券の売却や償還により投資その他の資産は13億円減少しました。その結果資産合計は1,021百万円減少し44,642百万円となりました。			
科目	2010年2月期	2009年2月期	増減
負債の部			
流動負債			
支払手形及び買掛金	9,521	10,747	△1,226
短期借入金	1,530	2,160	△630
一年以内返済予定の長期借入金	400	—	400
リース債務	0	—	0

単位：百万円、単位未満切捨て

科目	2010年2月期	2009年2月期	増減
未払金	2,126	2,117	9
未払法人税等	209	307	△98
繰延税金負債	0	0	0
賞与引当金	126	135	△9
返品調整引当金	54	71	△17
その他	359	495	△136
流動負債合計	14,327	16,033	△1,706
固定負債			
長期借入金	1,500	—	1,500
リース債務	1	—	1
長期未払金	—	85	△85
繰延税金負債	35	12	23
長期預り保証金	94	51	43
退職給付引当金	462	427	35
役員退職慰労引当金	236	236	0
再評価に係る繰延税金負債	198	201	△3
固定負債合計	2,529	1,014	1,515
負債合計	16,857	17,048	△191
流動負債は17億円減少しましたが、長期借入金の増加により固定負債は15億円増加しました。その結果負債合計は191百万円減少し、16,857百万円となりました。			
科目	2010年2月期	2009年2月期	増減
純資産の部			
株主資本			
資本金	3,622	3,622	0
資本剰余金	4,148	4,148	0
利益剰余金	22,098	23,189	△1,091
自己株式	△1,512	△1,868	356
株主資本合計	28,357	29,091	△734
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金	△286	△255	△31
繰延ヘッジ損益	△21	4	△25
土地再評価差額金	△260	△262	2
為替換算調整勘定	△82	△90	8
評価・換算差額等合計	△651	△603	△48
新株予約権	79	41	38
少数株主持分	—	85	△85
純資産合計	27,785	28,615	△830
負債・純資産合計	44,642	45,663	△1,021
株主資本は主に自己株式の償却による利益剰余金の減少により7億円減少し、純資産合計は830百万円減少し27,785百万円となりました。			

→ 連結損益計算書

単位：百万円、単位未満切捨て

科目	2010年2月期	2009年2月期	増減
売上高	68,865	78,566	△9,701
売上原価	54,537	63,088	△8,551
売上総利益	14,327	15,477	△1,150
返品調整引当金繰入差額	△17	△11	△6
(差引) 売上総利益	14,344	15,488	△1,144
販売費及び一般管理費	13,644	14,217	△573
運賃及び物流諸掛	3,928	4,052	△124
給料諸手当	4,305	4,456	△151
旅費交通費	610	711	△101
不動産賃借料	860	969	△109
その他	3,934	4,029	△95
営業利益	699	1,270	△571

売上高は前期比9,701百万円（12.3%）減の68,865百万円となる中、売上総利益率は1.1ポイント増加の20.8%となりました。こうした中、販売費及び一般管理費の削減に努めましたが、営業利益は5.7億円（45.0%）減少し699百万円となりました。

科目	2010年2月期	2009年2月期	増減
営業外収益	668	803	△135
受取利息	10	60	△50
受取配当金	77	90	△13
負ののれん償却額	2	—	2
不動産賃貸料	102	54	48
為替差益	346	—	346
デリバティブ評価益	—	448	△448
その他	129	149	△20
営業外費用	171	293	△122
支払利息	77	106	△29
不動産賃貸費用	38	15	23
為替差損	—	122	△122
投資有価証券持分損失	28	—	28
その他	27	49	△22
経常利益	1,196	1,781	△585

営業外収益は為替差益等により668百万円となり、営業外費用171百万円により経常利益は前期比585百万円（32.8%）減少し1,196百万円となりました。

科目	2010年2月期	2009年2月期	増減
特別利益	244	356	△112
投資有価証券売却益	227	225	2
固定資産売却益	0	12	△12
移転補償金	—	88	△88
リース会計基準の適用に伴う影響額	10	—	10
その他	6	30	△24

単位：百万円、単位未満切捨て

科目	2010年2月期	2009年2月期	増減
特別損失	436	611	△175
投資有価証券評価損	9	315	△306
投資有価証券償還損	62	—	62
固定資産売却損	0	0	0
固定資産除却損	13	8	5
長期前払費用除却損	1	2	△1
減損損失	9	58	△49
貸倒引当金繰入額	—	188	△188
事務所移転損失	224	—	224
下請代金返還金	79	—	79
その他	36	37	△1
税金等調整前当期純利益	1,004	1,526	△522
法人税、住民税及び事業税	272	557	△285
法人税等調整額	220	△33	253
法人税等合計	492	523	△31
少数株主利益	△61	6	△67
当期純利益	573	996	△423

特別利益は1億円減少し、特別損失は有価証券評価損の減少等により1.7億円減少し、その結果当期純利益は、前期比423百万円（42.4%）減少し573百万円となりました。

→ 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円、単位未満切捨て

科目	2010年2月期	2009年2月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,675	1,705
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,368	△3,488
財務活動によるキャッシュ・フロー	△34	△700
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	△46
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△720	△2,530
現金及び現金同等物の期首残高	3,686	6,216
現金及び現金同等物の期末残高	2,966	3,686

●営業活動に関するキャッシュ・フロー／当連結会計年度における営業活動により得られた資金は、税金等調整前当期純利益が1,004百万円となったことに加えて売上債権が2,794百万円減少する一方で、仕入債務が1,226百万円減少となったことにより2,675百万円となり、前連結会計年度と比較して970百万円（56.9%）の増加となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー／当連結会計年度における投資活動により支出した資金は、投資有価証券の売却、償還による収入もありましたが、有形固定資産の取得による支出などにより3,368百万円となり、全連結会計年度と比較して119百万円（3.4%）の減少となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー／当連結会計年度における財務活動により支出した資金は、長期借入れによる収入もありましたが、自己株式の取得や配当の支払い、借入金の返済による支出などにより34百万円となり、前連結会計年度と比較して666百万円（95.1%）の減少となりました。

→ 連結株主資本変動計算書

： 単位：百万円、単位未満切捨て

2010年2月期	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
平成21年2月28日残高	3,622	4,148	23,189	△1,868	29,091	
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減			0		0	
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当			△394		△394	
当期純利益			573		573	
自己株式の取得				△913	△913	
自己株式の処分		△0		0	0	
自己株式の消却		0	△1,270	1,270	—	
土地再評価差額金の取崩			—		—	
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△1,091	356	△734	
平成22年2月28日残高	3,622	4,148	22,098	△1,512	28,357	
2009年2月期	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
平成20年2月29日残高	3,622	4,148	23,518	△696	30,593	
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減			—		—	
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当			△438		△438	
当期純利益			996		996	
自己株式の取得				△2,082	△2,082	
自己株式の処分		0		29	30	
自己株式の消却		△0	△879	880	—	
土地再評価差額金の取崩			△6		△6	
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△328	△1,172	△1,501	
平成21年2月28日残高	3,622	4,148	23,189	△1,868	29,091	

評価・換算差額等					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算差額 等合計			
△255	4	△262	△90	△603	41	85	28,615
							0
							△394
							573
							△913
							0
		—		—			—
△31	△26	2	7	△47	37	△85	△95
△31	△26	2	7	△47	37	△85	△830
△286	△21	△260	△82	△651	79	—	27,785
評価・換算差額等					新株予約権	少数株主持分	純資産合計
その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算差額 等合計			
1,347	△581	△269	△26	469	40	79	31,183
							—
							△438
							996
							△2,082
							30
		6		6			—
△1,602	586	—	△64	△1,080	1	6	△1,072
△1,602	586	6	△64	△1,073	1	6	△2,567
△255	4	△262	△90	△603	41	85	28,615

商号

創業

設立

本社所在地

資本金

役員

従業員数

事業内容

単体商品別
売上高の状況

タキヒヨー株式会社

1751（宝暦元）年 5 月

1912（大正元）年 11 月 15 日

名古屋市西区牛島町 6-1 名古屋ルーセントタワー 22～24F

36 億 2,225 万円

代表取締役社長 滝 茂夫

専務取締役 伊藤安比古 営業部門統轄

常務取締役 小関敏彦 第 1 営業部統轄 兼 大阪支店長

常務取締役 滝 一夫 営業部門副統轄 兼 貿易部・AKNY ブランド・
テキスタイル営業部・テキスタイル企画開発室管掌

常務取締役 武藤 篤 スタッフ部門統轄 兼 経営企画部長 兼 経理部長

取締役 滝 祥夫 営業部門付 新規事業開発室長

取締役 岡本 智 第 2 営業部統轄 兼 婦人服部長

取締役 喜多 勇 第 3 営業部統轄 兼 ホームウェア部長

常勤監査役 加藤佳彦

常勤監査役 佐野 修

監査役 富田信夫

監査役 鷲野直久

(2010 年 5 月 19 日現在)

650 名（男 414 名 女 236 名）

ファッションを中心に、様々なライフ・ステージに関連する総合的な事業展開をめざし「ホームウェア・キッズ部門」「ヤングカジュアル・ミセス部門」などを展開。

アパレル部門

テキスタイル部門

百貨店部門

婦人衣料、ベビー・子供衣料、紳士洋品、ホームウェア、インテリア用品など、各種アパレル製品の企画・開発・販売及び輸出入。消費者のライフスタイルにあわせた、単品オリジナル商品の提案。

毛織物、綿合織、ニットなど、各種服地素材の企画・開発・販売及び輸出入から、最終商品としての各種衣料品の生産まで。

「ANNE KLEIN NEW YORK」といった、海外一流ブランドとのライセンス提携。「品」「ZAC-PAC」などのオリジナルブランドの開発。

※平成 22 年 3 月 1 日付けで、アパレル・テキスタイル・百貨店の事業部制を抜本的に見直す組織改編を行いました。

第99期

37,8765,3751,920

10,1419,019

[合計] 64,334

第98期

41,4385,4131,742

10,94613,729

[合計] 73,271

第97期

43,9506,0342,345

12,31515,333

[合計] 79,979

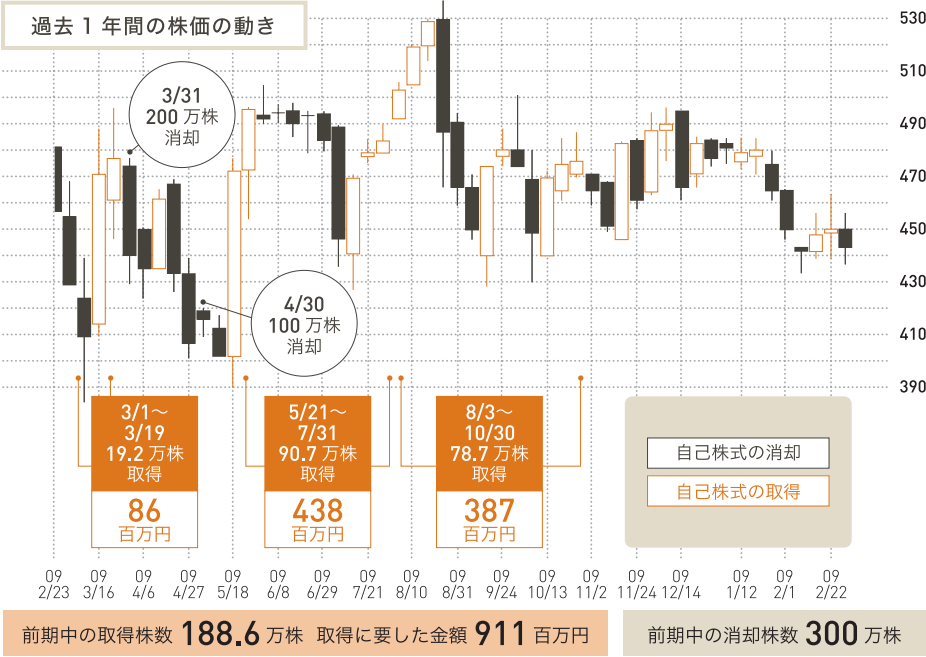
婦人服・婦人洋品

子供洋品・ベビー服

ホームウェア・インテリア

紳士洋品・その他

服地・その他



※発行済株式総数 51,532,300 株（自己株式 3,308,434 株を含む）
※自己株式は 2010 年 3 月 31 日に 1,000,000 株、2010 年 4 月 30 日に 1,032,300 株を消却し、49,500,000 株となっております。

大株主

(上位 10 名)

株主名	持株数(千株)	
株式会社旭洋興産	14,561	28.25%
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	1,291	2.50%
第一生命保険相互会社	1,200	2.32%
日本生命保険相互会社	1,029	1.99%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	835	1.62%
タキヒヨー取引先持株会	804	1.56%
滝 茂夫	793	1.53%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティインベストメンツ株式会社信託口)	600	1.16%
株式会社中京銀行	572	1.11%
あいおい損害保険株式会社	529	1.02%

※当社は、3,308 千株の自己株式を所有していますが、上記上位 10 名の株主から除いております。

※日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティインベストメンツ株式会社信託口）の所有株式の議決権行使の指図権は、信託契約上、中央三井信託銀行株式会社の全額出資子会社である CMTB エクイティインベストメンツ株式会社に留保されております。

総株主数

所有者別株式分布

3,571 名

個人・その他 35.3%

持株会 2.5%

外国人 1.8%

国内法人 40.1%

金融機関 20.2%